熊日1959.12.20

お母ちゃんたちがまだ中学生だったころね、水俣病って病気があってね、大変な騒ぎがあったんだよ――昭和五十年ごろ、水俣の母親が子供に話して聞かせる。

▽

水俣湾でとれたお魚を食べた人がひどい病気にかゝってね、そのためお魚が売れなくなって、漁師の人たちが困ったの。なぜお魚を食べると病気にかかるかなかなかわからなかったんだけど――

▽

どうしてなの、と子供が聞く。それがね、水俣の工場から出る水の中に毒になるものがあるらしい、というので調べたの。ところがやっぱり、はっきりしたことが分らない――

▽

漁師の人たちは、その日の暮らしにも困って、工場に暮らせるようにお金を出してくれ、と申し込んだけど、工場の方では、はっきりした原因がわからないのに、出せないという――

▽

そこで、漁師の人たちがおこって、工場に石を投げたり、工場の中の品物を壊したり、それをとめようとお巡りさんが出たりそれはもう大変な騒ぎで、ほんとにこわかったのよ――

▽

その時の県知事さんがね、寺本さんという偉い知事さんでねー、と、話してもらえることになったら、寺本知事も嬉しいことだろうが、そこまで行くには、まだまだなみ大ていのことではあるまい。

▽

現在のところは、まず第一部が終わったというだけだ。第一部の寺本知事の働きは、驚嘆が起こってから本腰を入れたということを除いては、まずまず上出来というところ。

▽

第二部は患者の治療、補償及び救済、第三部は海の処理、第四部は漁民の完全な立ち上り、と先はまだ長い。

▽

寺本さんという偉い知事さんでねー――というのはすべての総合採点のあとで決まる。そして、水俣病ということが背景りの中にだけ出て来るようになってからのことだ。